

ながおかワーク&ライフセミナー第3講座 開催報告 「ひきこもりふぉーらむ」

12月14日（土）午後1時30分から、長岡市立中央図書館講堂で「2024 ながおかワーク&セミナー 第3講座『ひきこもりふぉ〜らむーひきこもりの相談からの行き場所づくり（居場所、就労訓練、就職）』ひきこもり講座」を開催し、95名の方にご参加いただきました。

第3講座は、認定NPO法人「UNE」が企画・開催しました。

冒頭、主催者を代表して長岡地区労働者福祉協議会の今井事務局長から「長岡地区労福協は、地域の労働者福祉、高齢者福祉の向上、安心社会・共生社会を創るために生活者の視点でつながりを持つ活動として、セミナーを行っている」と挨拶がありました。続いて、後援団体を代表して長岡市の山田福祉課長から「10月の市長選

挙においてひきこもり対策が公約に盛り込まれた。市としてもしっかり取り組んでいきたい」と挨拶がありました。



次に、参加団体の紹介が行われました。時間の都合上、新潟県ライフサポートセンター、長岡地域若者サポートステーション、子ども食堂「はび吉」から、それぞれの活動報告を兼ねた挨拶がありました。

続いて、長岡市の山田福祉課長による「長岡市のひきこもり支援」に関する講演がありました。この中で、ひきこもり当事者が再び社会とつながることを目指し、春から設置した「ひきこもり支援相談室」について紹介がありました。10月末時点で延べ405件の相談を受け、支援対象者は75人となっています。また、訪問活動も行っているものの、対応は難しく、「支援の基本を忠実に！伴走支援を合言葉に活動していく」との報告がありました。

その後、NPO法人「UNE」の事例紹介が行われました。最初にUNEの活動概要が紹介され、次に当事者や関係者からの発言が続きました。



高校卒業後に就職するも職場に馴染めず退職し、しばらくひきこもり状態だった方の体験談やUNEでの活動報告。ひきこもりの人々に寄り添い支援する女性ボランティアの報告。さらに、長岡地域若者サポートステーションの職員によるUNEでの就職支援活動の紹介や、ひきこもりの子どもを持つ親からの体験談が語られました。最後に、UNEで同じ境遇の人々と共に過ごす中で共感を得た方からの報告もありました。



休憩後、NPO法人「福祉後見ネット」の小林代表による「ひきこもりと発達障害の問題点」に関する講演が行われました。日本の福祉制度がアメリカ型で「障がいは自己責任＝申請主義の福祉型」である一方、北欧型は「障がいは社会的責任＝大きな政府・高い税負担の福祉型」とであると指摘。さらに、日本が進める《我がこと丸ごと地域づくり》運動の課題や、2022年に文部科学省が発表した「児童の6.5%が発達障害」とのデータを

踏まえ、支援する側の対応の重要性について述べられました。

続いて、NPO法人「UNE」の家老代表から新たな「ひきこもり支援」の提案がありました。ひきこもり状態は幅広い年齢層に見られ、行政の対応が追いついておらず、制度や居場所の整備が遅れている現状について指摘。境界知能（IQ70～85）の方が多く見受けられることから、支援には①カウンセラーによる診断、②生活・就労支援、③住まいの確保が必要と述べUNEは、居場所や就労支援をしている。UNEでは「ソーシャルファーム」を目指し、新たな働き方や働く場所の提供が重要であると強調しました。

その後、質疑応答の予定でしたが、閉会の時間となったため邊見労福協副会長の閉会あいさつで終了しました。

約3時間の長丁場でしたが、多くの方の思いや決意を聞くことができ、有意義な時間となりました。